

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ぷりも		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 24日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2026年 1月 24日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援プログラムの種類多くが充実している。	支援内容については職員からの意見を常に取り入れて固定化されないようプログラムを組んでいる。曜日で固定されないように月単位で決めている。	保護者様からの意見もきちんと取り入れ、好評の取り組みは継続して行う。新しいプログラムの考案。
2	管理者、専門職、保育士の連携がうまく取れている。	日頃からコミュニケーションを取るようにし、相談しやすい関係づくりに努めている。	意見交換できる場を設け、意見しやすい環境を設定する。児童に関するミーティングの時間を増やしていく。
3	保護者様が相談しやすい場所として機能している。	定期的な保護者会の開催・毎月の自由参観も設定し、お子さまの様子の共有を対面で行っている。	利用している児童だけではなく、兄弟児や家庭・就学などの相談にも乗る。また専門職の意見など多方面からのアドバイスしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学先や併用先との関りが薄く、与えられる情報が少ない。	退所児や他事業所との関りが薄いことによる情報の希薄	退所児との関係継続や、系列の放課後等デイサービスからの情報提供の場を作る。
2	事業所のが狭いことで活動や対応に制限がある。	事業所が入っているビルのスペースの活用がうまくできていない。	系列事業と協力し合える体制を作り、スペースの活用方法を検討する。また自分事業所・他事業所を活用した合同プログラムの提案をおこなう。
3	職員によって支援スキルの差がある。	仕事内容の偏りが大きい。指導力に欠けている。	仕事の割り振りを検討し、様々な仕事にそれぞれが触れる機会を設ける。研修の充実や教育係を担当制にするなどの工夫をする。